

開講科目名 / Course	看護アセスメント概論	
ターム・学期 / Term・Semester	2021年度 / Academic Year 前期	
開講区分 / semester offered	前期	
単位数 / Credits	1.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	藤内 美保	
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、藤内 美保、山田 貴子、内倉 佑介	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	講義	
科目の目的と概要	個人、家族、地域社会のヘルスニーズを達成するための方法論である看護過程の理論を理解することを目的とする。対象者の健康問題と看護の必要性をアセスメントし、問題解決を踏まえた看護過程を展開するための基礎理論を学ぶ。	
到達目標	1. 看護過程の意義や目的について説明できる。 2. 対象理解のための情報収集、根拠に基づいたアセスメント、アセスメントに基づいた看護診断と優先順位の決定、看護計画、実施、評価について説明できる。 3. 事例を通して、一連の看護過程の展開を実施できる。	
DPとの対応	1.確かな看護の力・技術力、2.看護を遂行するための幅広い知識と観察力・臨床推論能力、マネジメント能力	
授業計画	01. 看護過程の意義、概要 02. 看護過程の展開：アセスメント（1）情報収集 03. 看護過程の展開：アセスメント（2）アセスメントツールなど 04. 看護過程の展開：アセスメント（3）全体像の把握 05. 看護過程の展開：看護診断（1）診断のための基礎的知識 06. 看護過程の展開：看護診断（2）診断のプロセス 07. 看護過程の展開：計画 08. 看護過程の展開：実施、評価 09. 事例による個人ワーク（1）アセスメント 10. 事例による個人ワーク（2）看護診断、計画	
その他の授業の工夫	講義と事例による個人ワークを並行しながら実施することで、各々の学生が、看護過程の理論を具体的に活用し、一連のプロセスとその考え方について理解し、展開できるようにしている。	
時間外学修	事例による個人ワークレポートを作成し、コメントに応じて修正し、完成させる。	
評価方法と評価割合	期限内に提出された事例による個人ワークのレポートの提出が評価の前提である。 小テスト（30%）、レポート内容（70%）。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[2]（医学書院） NANDA-I看護診断定義と分類2018-2020（医学書院） 看護診断を導く情報収集・アセスメント 第6版（学研）	
参考書		
履修する上で必要な要件		
その他		
教員の実務経験	有・無 内容	有 藤内美保：病院の看護師 石田佳代子：病院の看護師 山田貴子：病院の看護師 内倉佑介：病院の看護師
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無 内容	無
実務経験をいかした教育内容	看護師経験を通して、エビデンスに基づき、臨床現場と理論を結び付けながら教授する。	